

平成 25 年 3 月 25 日

平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

一橋大学附属図書館
菅原 光

1. 出張者

- ・ 古橋 英枝 (東京外国語大学附属図書館)
- ・ 菅原 光 (一橋大学附属図書館)

2. 日時

平成 24 年 10 月 28 日(日)～11 月 4 日(日)

3. 訪問場所および訪問対象者

① Arizona University

- ・ Jeremy Frumkin (Assistant Dean for Technology Strategy)
- ・ Dan Lee (Director of the Office of Copyright Management & Scholarly Communication)
- ・ Christine Kollen (Data Curation Librarian)

② Purdue University

- ・ Charles Watkinson (Director and Head of Purdue Libraries' Scholarly Publishing Services)
- ・ David Scherer (Scholarly Repository Specialist)

③ University of Michigan

- ・ Meredith Khan (Publishing Services & Outreach Librarian)
- ・ Natsuko Nicholls (CLIR/DLF Data Curation Fellow)

4. 訪問目的

近年、ICT の発達や学術情報の電子化によって、大学における教育・研究活動は高度化・多様化が進んでいる。大学図書館も ICT を使った情報発信や、所蔵資料のデジタル化、電子媒体の資料購読、統合検索の導入など、様々な変化を求められている。こうした電子環境下において我々は今後どのようなサービスを提供することができるのか。

報告者は、研究者や学生が行う学術情報のインプット・アウトプットに関する北米の大学図書館サービスに関心を持ち、このテーマに関連した調査対象を設定した。具体的には、大学図書館における出版活動に焦点を当てて、どのような取組みを行い、どのような成果を出しているのかを明らかにすることを訪問目的とした。

5. 調査およびヒアリング事項のまとめ

① 出版サービスの着手と活動の拡大

SPARC は 2011 年 11 月に、北米の大学図書館の出版活動に関する調査報告書（『Library Publishing Services : Strategies for Success』(Raym Crow, et al. 2011)）を公開した。そこでは、質問紙調査に回答した高等教育機関（ARL や Oberlin Group に所属している）の約半数が何らかの形で出版活動を行っている、または、その活動に関心を持っていることが記されており、北米の大学図書館における出版活動への関与がおおよび関心の高さが明らかにされている。

② 組織の構成やサービス内容、出版物の多様性

アリゾナ大学図書館では、Scholarly Publishing and Data Management という部署が出版サービスを担当している。この部署には他に、著作権の啓蒙に関する仕事、研究の過程で派生したデータのマネジメント、機関リポジトリなどの業務を担っている。アリゾナ大学図書館はアメリカの中でも早くから出版サービスや雑誌のオープンアクセス化に取り組んでおり、SPARC のサポートも受けていた（SPARC Leading Edge）。具体的には、2000 年頃から商業雑誌の高騰化に対して The Journal of Insect Science という雑誌を教員と協力して、web 上でオープンアクセスにするという取り組みを行った。出版に関する業務内容は、電子出版システムを用意し、それを利用者に使ってもらうというホスティングサービスである。Open Journal Systems というオープンソースの電子出版プラットフォームを用意し、電子ジャーナルを公開したいという研究者・学生に使ってもらっている。現在このシステムを使って6つの雑誌が発行されており、それぞれの編集担当者が雑誌の編集作業を進めている。図書館は、個々の雑誌の編集作業そのものには関わらず、専らシステムの導入・メンテナンスのみを行っているとのことだった。出版サービスを図書館員が担当するに当たって、システムベンダーが提供している Webinar（オンライン研修）に参加したり、ARL のワークショップに参加したりしてスキルアップを図っているとのことだった。

パデュー大学図書館は、アリゾナ大学図書館と違った組織体系をしており、Purdue University Press という組織が図書館内にある。Press は図書館内に置かれてはいないものの、出版実務に特化した職員も配置されているため、図書館職員だけでメンバーが構成されている組織ではない。査読を経た上で出版される図書や雑誌の他、学生の研究成果をまとめた学際的な雑誌や、テクニカルレポート、コンファレンスプロシーディングスといった確立した流通経路の確保が難しい、灰色文献の公開にも取り組んでいる。また、これら出版物の出版戦略、著作権に関するアドバイス、出版に必要なツールの紹介といった企画の段階から、公表された研究成果の保存方法に至る一連の流れ全てを、Press 内の職員とアウトソースを組み合わせでサポートしている。こちらでも雑誌の電子的な公開をするためのインフラを提供しており、Digital Common と呼ばれる電子出版システムを採用していた。こうした充実したサービスを提供できる背景として、もともと査読済みの学術的な出版物の出版を担当していた大学出版会が、資料のデジタル化や機関リポジトリ、また研究データのマネジメントをしていた大学図書館に統合されて現在の形ができたことが影響している。最後に Press の対外的な活動を紹介したい。大学図書館が主体となって行う出版活動に関する情報交換の場、研修の場として、Library Publishing Coalition と名付けられた活動が昨年からは本格的に動いており、全米約 50 の、出版活動を行っている大学図書館が共同で、大学図書館における出版サービスをより充実させる

ため、研修プログラムの策定に取り組んでいるということだった。こうした取り組みによって、大学図書館が出版サービスを提供するためにはどういった知識が必要なのか、どういったツールがあるのかといったことが広く公開され、またサービスが標準化されると、それを参考に日本の大学図書館でもより関心が高まるのかもしれない。

ミシガン大学図書館もパデュー大学図書館と似た組織体系をしており、MPublishing という組織が図書館内にある。この部署は、著作権の啓蒙に関する仕事、雑誌の出版、紙媒体へのオンデマンド出版、出版のコンサルティング、機関リポジトリ、そしてかつては図書館とは別組織だった大学出版会から構成されている。MPublishing はそのweb サイトに約60名近くの職員が名を連ねており、図書館員から編集者、システムのプログラマー、デザイナーというように、およそ出版業務のほとんどを自前で提供できる大規模な組織である。MPublishing も出版会で査読を経た上で出版される図書や雑誌の他、学生の研究成果をまとめた学際的な雑誌や、テクニカルレポート、コンファレンスプロシーディングスといった資料の公開に取り組んでいる。3つの大学の実践を拝見し、大学図書館と出版会が統合しているとは言え、どちらかというとうちの大学図書館が主体となって行う出版サービスは、学内の研究会、学内で運営されている学会等の研究成果の公開に利用されているといった印象を受けた。こちらでも研究成果の電子的公開のため、DLXS という電子出版システムを自前で作成し、そこでコンテンツを公開する他、他の大学図書館にもこのツールを提供している。特徴はOpen Journal Systems と似ているようで、複数の電子ジャーナルを分野や雑誌の違いを超えて一つの共通のプラットフォーム上で持続的に管理、提供することができるようになっている。また、学術情報の電子的な公開だけではなく、オンデマンドの印刷製本が可能な Espresso Book Machine を導入して、紙媒体による研究成果の流通にも貢献していた。これから生産される博士論文や雑誌、教科書などを教職員や学生が決められた価格で紙媒体に印刷することができる他、図書館の事業として絶版となった図書の復刻や著作権の切れた図書の再版をし、それをハーティトラストやAmazon と連携して広く流通させることにも取り組んでいた。

③ 学術情報の流通と保存に新たな手段で貢献

北米の大学図書館は現在、公表された出版物を収集し利用者に提供するサービスにとどまらず、機関リポジトリや所蔵資料のデジタル化に加えて出版サービスにも取り組んでおり、自らも学内の学術情報そのものを扱い、その流通促進へ寄与するようになっている傾向が窺えた。

6. 所見

日本の大学図書館が関与する学術情報の発信業務は、そのほとんどが機関リポジトリの運営を指すと思われる。北米の大学図書館では、自らが電子出版システムや印刷機を用意し、学内の研究成果の発信に積極的に関与する姿勢が窺えた。学術情報の多様な流通手段を我々大学図書館自身も提案できるよう、今後も国内外における出版活動に注目したい。